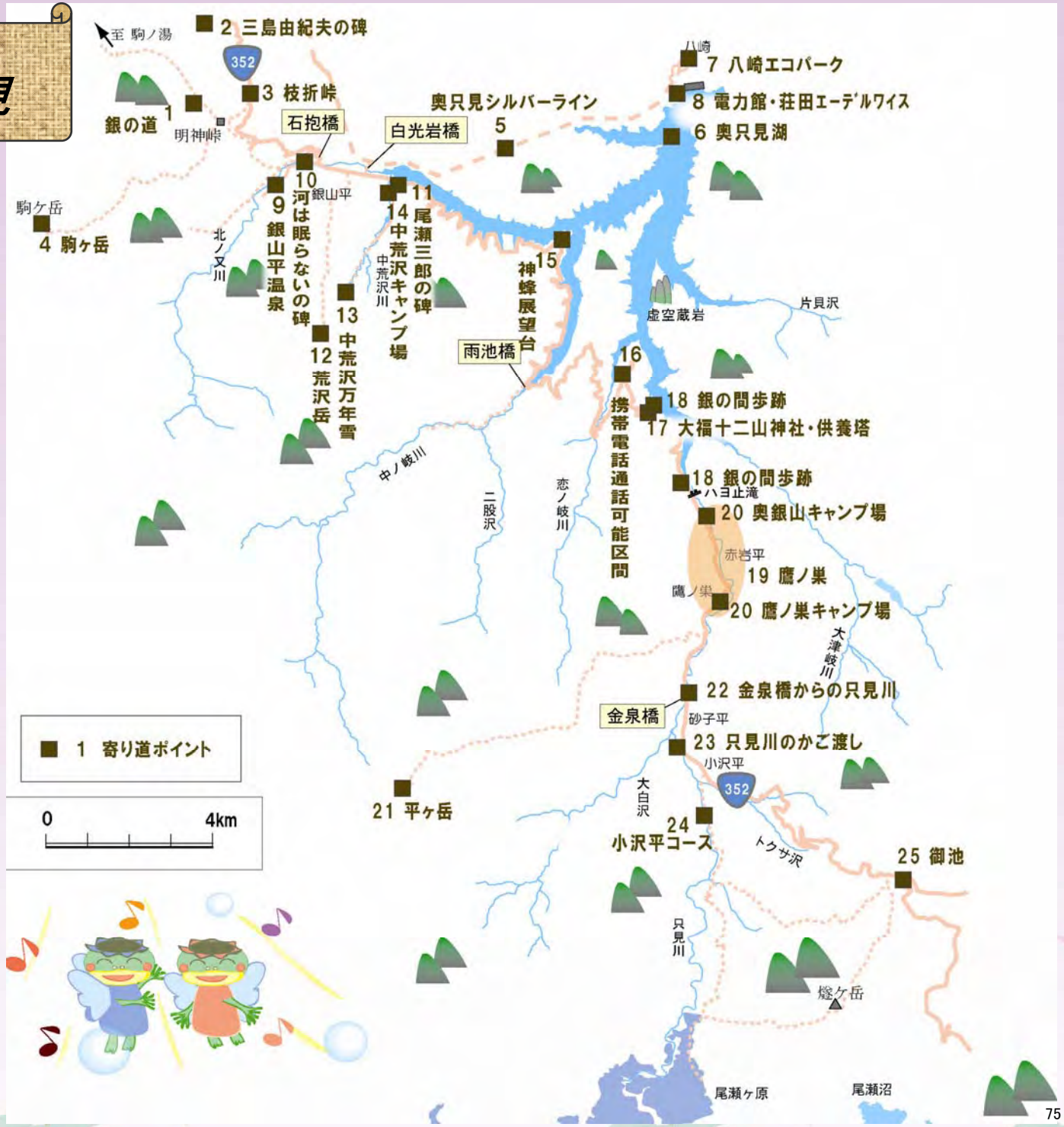
第二章
おすすめ寄り道処　*奥只見*

奥只見は、自然の美しい景勝地として有名で、おすすめのスポットがたくさんあります。そして、かつてここに暮らした人たちの営みも垣間見ることができます。大自然の中でたくましく生きてきた人々の歴史に思いを馳せながら、この地をぶらりと探訪してみてはいかがでしょうか。



1　銀の道（旧枝折峠）

銀山平側五合目　「松尾根」
松の木が生えていたという。

現在の枝折峠ができるまでは、銀山と越後側の麓の集落を結んだ唯一の道でした。今はブナに囲まれたひっそりとした山道ですが、銀の採掘時代には行きかう人が絶えませんでした。

現在はハイキング道として整備されています。一合ごとに地名の入った標柱が立っていて、当時の様子を偲ぶことができます。

【コースタイム】
・駒ノ湯側　一合目坂本～十合目大明神
　上り 3 時間・下り 2 時間 10 分、標高差約 900m

・銀山平側　一合目石抱～十合目大明神
　上り 2 時間・下り 1 時間 40 分、標高差約 450m

十合目　「大明神」
山仕事や銀山普請の安全を願って、
木花開耶姫命をまつってある。

駒ノ湯側のルートはブナ林が
美しい

2　三島由紀夫の文学碑

国道枝折峠の小出側手前の「長峰」というところに、三島由紀夫の文学碑があります。

奥只見ダム建設現場をモデルにした「沈める滝」という小説の、駒ケ岳を描写した部分が刻まれています。

駒ケ岳は孤独な肩をそびやかし、空の青い深い静けさを、その存在で護って立っているように見えた。地上的なものに触れて低い山々は紅葉しているのに、この山ばかりは地上にただ基底を託して、半ば天界に属していた。それは一つの不動の思想であった。

三島は昭和 29 年に魚沼に取材に訪れました。

←　道中の「長峰」にある三島由紀夫の文学碑

3　枝折峠

枝折峠からの景色
（長岡市　高田道夫さん撮影）

紅葉の頃のドライブは最高。駒ケ岳の勇姿も望めます。

昭和初期まで、小出と奥只見の間は車で行くことはできず、旧枝折峠の道が唯一でした。第二次大戦中に、戦闘機用の材木を運び出すために切られた道が、現在の自動車道の基本ルートになっています。

枝折峠は駒ヶ岳への登山基地になっており、休日はにぎやかです。トイレもあります。

4　駒ヶ岳

残雪の駒ヶ岳
（魚沼市　磯部剛さん撮影）

日本百名山の一つ、駒ヶ岳は、越後を代表する雄大な山です。麓のブナ林もまた格別です。

国道352号枝折峠から登るルートは高低差が少なく最も人気があります。このほか、駒ノ湯から登るルート、水無川から登るルート、越後三山の八海山や中ノ岳からの縦走ルートなど、様々なバリエーションがあります。

山頂近くの「駒の小屋」
（魚沼市　磯部剛さん撮影）

山頂からの展望
（魚沼市　磯部剛さん撮影）

5　奥只見シルバーライン

ひんやりとしたトンネルの中

国道 352 号、小出方面からシルバーラインへ向かう。「尾瀬奏でロード」は、写真の一番左のレーン。

銀山平や奥只見へ行くためのルートのひとつです。

奥只見ダム建設のための資材運搬路として開発されましたが、現在は新潟県が管理しています。全長 22km のうちの 18km がトンネル区間で、合計 19 本のトンネルが続きます。

ひんやりとした長大なトンネルには、所々に手掘りの岩肌が露出しています。県外からの観光客にとってはめずらしいようです。

そして、ぜひとも体感していただきたいのは、「尾瀬奏でロード」。車で走っていると、名曲「夏の思い出」のメロディがどこからともなく聞こえてきます。ひみつは、道路に刻まれた 2837 本の溝。ここを車で通過すると、溝の間隔や深さ等の違いで、高低や長さの違う音が出るというしかけです。音楽が奏でられる道はここだけです。体感できるのは、国道 352 号のシルバーライン入口手前の３車線になった区間で、一番左のレーンです。旅の気分が盛り上がることうけあいです。

6　奥只見湖

ボートでの釣りや遊覧船観光で賑わいます。「虚空像岩」などの名所も船上から眺めることができます。

奥只見湖を経由する尾瀬ルートは、遊覧船に乗って行く唯一のルートとして人気を集めています。

紅葉の奥只見湖　→
（魚沼市提供）

満々と水を湛える重力式ダム
（魚沼市提供）

虚空蔵岩
（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

7　八崎エコパーク

ここはもともと湿地があり、特有のトンボや植物が生育していた場所です。平成 11 年～15 年に発電所建設時の土捨て場として使われましたが、様々な工夫によってこれら動植物を絶やすことなく、工事後に湿地を再現しました。遊歩道がついていて一般に開放されています。

春には、ミズバショウやリュウキンカ、ミツガシワなどの湿生植物が花を咲かせます。初夏から秋になると、様々なトンボが出現し、モリアオガエルが産卵をはじめます。

懸命に生きるこれらの動植物を大切にし、静かに見守ってゆきましょう。

緑豊かなエコパーク

現地の案内看板　貴重な動植物が生息している

8　奥只見ダム電力館　荘田エーデルワイス

奥只見ダムの脇に建つダムの資料館です。ダムの下にあるターミナルから、モノレールに乗っていくこともできます。
電力館の脇の花壇には、エーデルワイスが可憐な花を咲かせています。
雪崩から人命や施設などを守るために精力的な研究を続けられた荘田幹夫博士が、スイスから持ち帰って寄贈した種がこの先祖です。
多くの人々に慕われ、影響を与えた博士は、その２週間後に５０歳という若さで彗星のようにこの世を去りました。

ターミナルからのぼる
モノレール

エーデルワイスの花壇

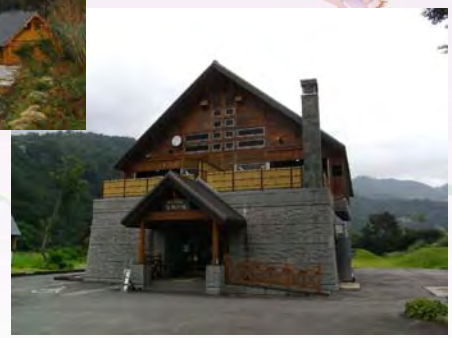
花期は７～８月

9　銀山平温泉

原野にただずむログハウス村です。奥只見湖での釣りや登山、自然散策の基地としてにぎわいます。
日帰り入浴施設「白銀の湯」もあります。

紅葉に染まる原野。
晴れていれば荒沢岳の雄姿も。
（長岡市　高田道夫さん撮影）

↑　民宿とバンガローが立ち並ぶ
（長岡市　高田道夫さん撮影）



ぬくもりあふれる「白銀の湯」→

10　「河は眠らない」の碑

奥只見をこよなく愛した、釣師で作家の開高健。釣人による乱獲から奥只見の魚を守り、産卵場所となる渓流環境を守ろうと結成された「奥只見の魚を育てる会」の永代会長でもあります。

魚の産卵場所保全のために、石抱橋から上流が全面禁漁区になっている北ノ又川。

悠然と流れるこの川のほとりに開高健の残した「河は眠らない」の文字が刻まれています。

北ノ又川　石抱橋のたもとに建つ
「河は眠らない」の碑

11　尾瀬三郎の碑

悲恋の貴公子尾瀬三郎。都を追われ、枝折峠を経て尾瀬に入ったといわれています。「枝折峠」「尾瀬」といった地名は尾瀬三郎伝説に因んだものです。

12　荒沢岳

越後の穂高岳と称される、険しく雄大な山です。岩場が連続するため、登山には細心の注意が必要です。

銀山平の登山口から往復約８時間の登山コースです。

中荒沢からの荒沢岳
（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

13　中荒沢万年雪

↓　大迫力！万年雪と三段の滝

中荒沢川沿いの林道終点から歩きはじめて、わずか 30～40 分で万年雪に出会えます。道はアップダウンがありますが、よく整備されています。

雪に磨かれた岩壁、それに抱かれた万年雪、雪が解けて姿を現した三段の滝など、すばらしい景色が目前に広がります。万年雪の周りの急斜面は、高山植物のお花畑になっています。オンタデ、ハクサンコザクラ、カラマツソウ、コバイケイソウ、ニッコウキスゲ、モミジカラマツ、ワレモコウなどが生育しています。

標高 1000m ほどの低いところに、万年雪がみられることは珍しいといえます。この地は豪雪地で、雪崩が頻発することで、谷底に大量の雪が溜まります。これらの雪が万年雪として夏でも残ることになるのです。雪が融けた場所から草花が生育をはじめますが、生育期間が短く、気温が低いために、植物にとっては厳しい環境です。このため、高山性の植物が有利に生育できるのです。

コバイケイソウ

カモシカ

14　中荒沢キャンプ場

整備の行き届いたオートキャンプ場で、どなたでも快適に自然の中で楽しめます。日帰り温泉施設「かもしかの湯」もあります。中荒沢川での水遊びや渓流釣り、ブナ林での森林浴もおすすめの楽しみ方です。

ブナ林には東湯之谷小学校の児童が設置したヤマネ用の巣箱があります。もしかしたら、ヤマネに会えるかも。

らくらくオートキャンプ場

2007年9月に管理棟前
に現われたヤマネ
（佐藤朋市さん撮影）

半露天風呂の「かもしかの湯」

キャンプ場隣のブナ林
遊歩道が整備されている

キャンプ場周辺でのイベント

銀山平　夏の雪まつり

豪雪地ならではの夏の雪祭りです。

7月最後の週末に行われます。

中荒沢川でのイワナつかみどり、無料遊覧船ツアー、屋台村など様々な催しがあり、毎年大勢の観光客が訪れる一大イベントです。

←　きゃ～　つかんじゃった
イワナつかみどり

おいしい物もたくさんあるよ

雪の上でそり遊び

15　神蜂展望台

ドライブの休憩ポイントに立ち寄ってみてください。奥只見湖が一望できます。

幻想的な奥只見湖　→

16　携帯電話通話可能区間

銀山平から奥の国道352号沿いでは、ほとんどの区間で携帯電話の電波が入りません。
日常の喧騒を忘れて・・・というわけにいかない人や旅の無事を連絡したい人は、ここで電波が入りますのでどうぞ。
（ただし、2008年現在は、ドコモに限る）

←　お知らせ看板

17　大福十二山神社・供養塔

ダムの水没をさけて現在の場所に移されました。銀山採掘時代の1657年に建立された神社といわれています。採掘は危険と隣り合わせの仕事でしたから、信仰も篤かったようです。境内には、神社建立時に寄進された手洗鉢や砕鉱に使った石臼、鉱山犠牲者のために1850年に建立された供養塔も残っています。

神社

旧湯之谷村文化財　手洗い鉢

境内の供養塔

船着場近くの間歩

間歩の中　かなり狭い

十二神社近くの間歩

18　銀の間歩跡

十二神社境内から遊歩道を下ったところにあります。かつて銀を採掘した間歩（坑道）の多くはダムに水没しましたが、ここは残された数少ない間歩です。狭い穴で労働をした当時の人たちの苦労が偲ばれます。
また、尾瀬口船着場近くにも間歩が残っています。

19　鷹ノ巣

山懐に抱かれた原野を開拓してできた集落です。奥只見ダム開発後の昭和 42 年に離村し、冬に暮らす人はいなくなりましたが、今でも夏場には、数軒の民家が民宿を営んだり、山菜採りや畑仕事をしたりして生活をしています。北海道のような雰囲気もあるこの集落、ぜひ立ち寄ってみてください。ここだけ時がゆっくりと流れているような、そんな素朴さが感じられます。

なお、３軒の民宿はそれぞれに個性のあるおもてなしをしてくれます。

老夫婦の時間はゆっくりと流れる
（安達健一さん・キヌコさん）

原野が開拓されて一面のソバ畑になっている　鷹ノ巣ではソバ造りが盛ん

小さな郵便ポスト
１日おきくらいに回収される

原野に続く道
かつては家や畑があった

鷹ノ巣地区の民宿
自家製そば粉をつかった手打ちそばを出してくれる宿もあれば、
おしゃれな洋食をだしてくれる宿もある

20　鷹ノ巣付近のキャンプ場

かつての開拓村鷹ノ巣には、奥銀山キャンプ場と鷹巣キャンプ場があります。平ヶ岳への登山、只見川での渓流釣りや川遊びの基地としても人気があります。のんびりと散策するのもよいでしょう。

奥銀山キャンプ場

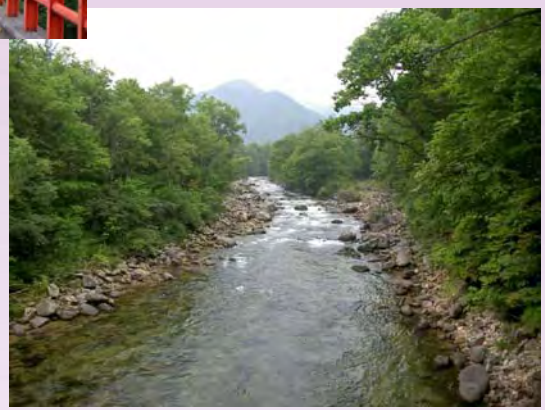
鷹ノ巣キャンプ場

22　金泉橋からの只見川

新潟県と福島県の県境にあります。昔は橋ではなく、「かごわたし」でした。その後、吊橋の時代を経て、現在の橋になりました。

ちょっと立ち寄って雄大な只見川の景色を眺めてみてください。

緑に映える金泉橋



橋から上流の只見川　→

21　平ヶ岳

日本百名山の一つ、平ヶ岳。正式なルートは鷹ノ巣から登ります。登り７時間の長丁場ですが、山頂の湿原に出たときの喜びはひとしおです。名物「玉子石」にもぜひ拝顔してください。

なお、平ヶ岳の登山の際に銀山平の民宿に泊まると、車で林道の終点まで送迎してもらえます。この場合は３時間で山頂に着けます。

雪だるまみたいな玉子石
花こう岩が風雨によって風化し、こんな形に

姫池より平ヶ岳山頂を望む
（魚沼市　星野正昭さん撮影）

鷹ノ巣から稜線に出る
キタゴヨウの緑と鮮やかな紅葉にうっとり

23　只見川の「かご渡し」

開拓時代には、川を渡るには吊橋を渡るか、かご渡しが主流でした。今ではそのほとんどはなくなりましたが、ここには現役のかご渡しが残っています。地元の人が山菜取りで深山に入るためのものですが、只見川を渡って大白沢に入る釣り人もよく利用しているようです。

只見川に架かるかご渡し

このとおり、手でワイヤーを手繰るようにして進む。復路は山菜で重くなるので、ワイヤーに少しだけ傾斜をつけて楽に渡れるようにしている。

24　小沢平コース

尾瀬の裏ルート入口で、燧ケ岳登山口でもあります。只見川沿いの歩道は、ブナやトチノキの大木が点在する河畔林の中に続いています。沼山峠から入る表ルートとはまた違った静かな趣で、こちらもおすすめです。

只見川の河畔林
トチノキやブナがうっそうと茂る

25　御池

沼山峠へ行くには、ここでマイカーは通行止めです。その先は、シャトルバスに乗り換え沼山峠口まで行きます。御池のまわりにはうっそうとしたブナの原生林があり、車窓からも荘厳な森を眺めることができます。

車窓からながめるブナ原生林

御池駐車場　沼山峠へ行くにはここからシャトルバスに乗り換える